

「災害科学に関する最新研究成果の情報交換会」を実施しました（2020/7/10）

テーマ：東北大学と名城大学の連携
場所：オンライン

東北大学と名城大学が2019年10月28日に締結した包括連携協定に基づく活動の一環として、7月10日（金）、東北大学災害科学国際研究所と名城大学自然災害リスク軽減研究センターが、共同で情報交換会を実施しました。災害科学の分野の最先端研究について、両大学あわせて合計で6件の研究成果の発表があり、22名の参加者がありました。今回の情報交換会では工学の研究テーマが中心で、下記のような発表がありました。

令和元年台風19号の丸森町の被災状況と復旧・復興

柴山 明寛（当研究所 情報管理・社会連携部門 震災アーカイブ研究分野）

主としてシェル・空間構造や室内挙動の観点からの取り組み

武藤 厚（名城大学自然災害リスク軽減研究センター・理工学部建築学科）

強震観測に基づく地盤震動評価と建物構造モニタリング

大野 晋（当研究所 災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野）

世帯の居住地選択と居住継続に関する研究ーこれまでの研究成果と防災分野への応用可能性ー

鈴木 温（名城大学自然災害リスク軽減研究センター・理工学部社会基盤デザイン工学科）

津波遡上シミュレーションとその代理モデル

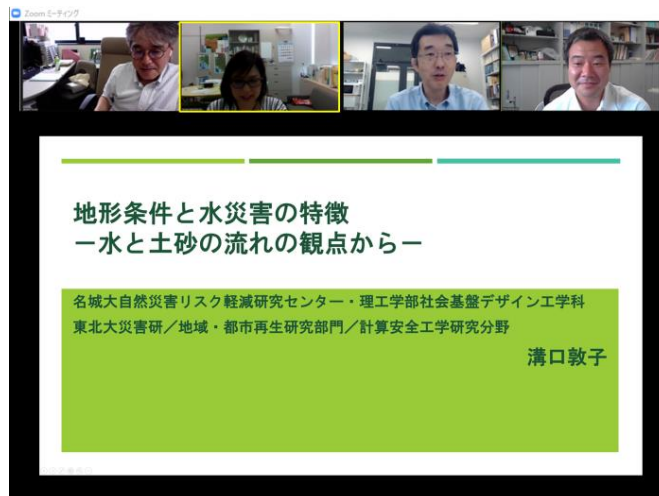
森口 周二（当研究所 地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野）

地形条件と水災害の特徴ー水と土砂の流れの観点からー

溝口 敦子（名城大学自然災害リスク軽減研究センター 理工学部社会基盤デザイン工学科、
当研究所 地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野）

※発表順

また、上記の情報交換会の後に、東北大学と名城大学の一部のメンバーと民間企業（トヨタホーム（株）、（株）ミサワホーム総合研究所、プライム ライフ テクノロジーズ（株））からの参加者が、災害を意識した新しい街づくりに関する意見交換会も実施しました。



オンライン情報交換会の様子

文責：森口周二（地域・都市再生研究部門）

溝口敦子（名城大学自然災害リスク軽減研究センター、地域・都市再生研究部門）